

# 松くい虫の駆除をもっと楽に

～ 効率的な松くい虫被害木の駆除 ～

## 研究の背景・目的

島根県の有用資源であるマツ林が松くい虫被害によって減少しています。

被害対策には枯れた木の中にある、病原線虫の媒介者であるマツノマダラカミキリの駆除が有効です。作業は重労働で処理コストが高く、被害量に駆除が追いつかない状況です。また、化学農薬を使わない駆除が切望されており、天敵であるポーベリア菌を利用した方法を確立しましたが、天敵製剤は化学農薬に比較して高価で、まだ、広く普及していません。

そこで 駆除する被害木の部位を限定すること、生物製剤を簡易な処理で設置する方法を開発して、効率的な被害木の駆除方法を確立します。



隠岐の島町の激害地



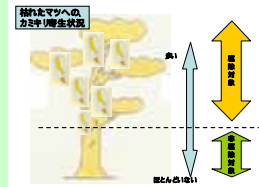
マツノマダラカミキリ成虫



枯死木処理作業の様子

## 研究方法

県下各地のマツ枯死木を伐り倒して、幹の太さなど、どのような場所にカミキリが寄生しているかを調査します(右図)。そして、駆除処理対象とすべき部位を決定して、実証試験を実施します。



## 研究方法

生物的駆除を普及するため、被害木の処理工程を様々に省略した状態で生物製剤を設置して、マツノマダラカミキリ駆除の効果が高く、省力できる方法を調査します。



天敵製剤の設置状況



感染・死亡したカミキリ

## 研究状況

飯南町と隠岐の島町でマツ枯死木へのカミキリの寄生状況を調査しました。カミキリは幹の太い場所への寄生は少なく、直径が25cmより太い部位で寄生を認めていません。今後更に各地で調査して、処理対象部位の太さを絞り込みます。

屋内に設置した被害木の様々な部位にカミキリを放虫して行動を観察します。そして、木のどの場所に天敵製剤の設置したらよいかを検討します。

## 研究の活用

太く、重たい根本部分の処理をする必要が無いので、労力的に楽に作業ができます。コストも削減できるため、処理する枯死木の本数を増やして、広域の駆除が実施できます。

駆除経費を下げることによって、生物製剤の利用が広まり環境に優しい松くい虫駆除ができます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

森林保護育成グループ

担当研究者 福井修二(ふくい しゅうじ)

問い合わせ先 0854-76-3822

E-mail [chusankan@pref.shimane.lg.jp](mailto:chusankan@pref.shimane.lg.jp)

試験研究課題名: 松くい虫の効率的な駆除技術の確立 (研究期間: H20~22)